

報 告

清 水 慶 彦 君 の 御 紹 介

胸部外科学部

寺 松 孝

清水君は、昭和40年度の本学卒で、その後医者にならうかなるまいかと思案した由である。結局、国立岐阜病院（当時日野荘）の小林君美君に説得されて医者になることを決心、同病院で、胸部外科について研修、昭和45年、三重県立大学医学部胸部外科の久保教授の許で、助手として1カ年間、心臓外科を学び、その後は岐阜病院の心臓班の中核となって活躍していた。

昭和48年4月1日、甲斐隆義助手の辞職の後をうけ、当部の心臓方面を担当してもらう予定できて戴いた。

基礎的研究としては、目下人工静脈についての中心である。

性は温厚、篤実、研究熱心で、近來稀な好青年である。目下の処、欠点らしい欠点が見当たらないが、あるいはこの欠点が少ないということが欠点となるかも知れないと考えている。

なお、同君は、当部の人見助教授の実弟であり、昨夏結婚、一児の父となったことなどを附け加えておく。